

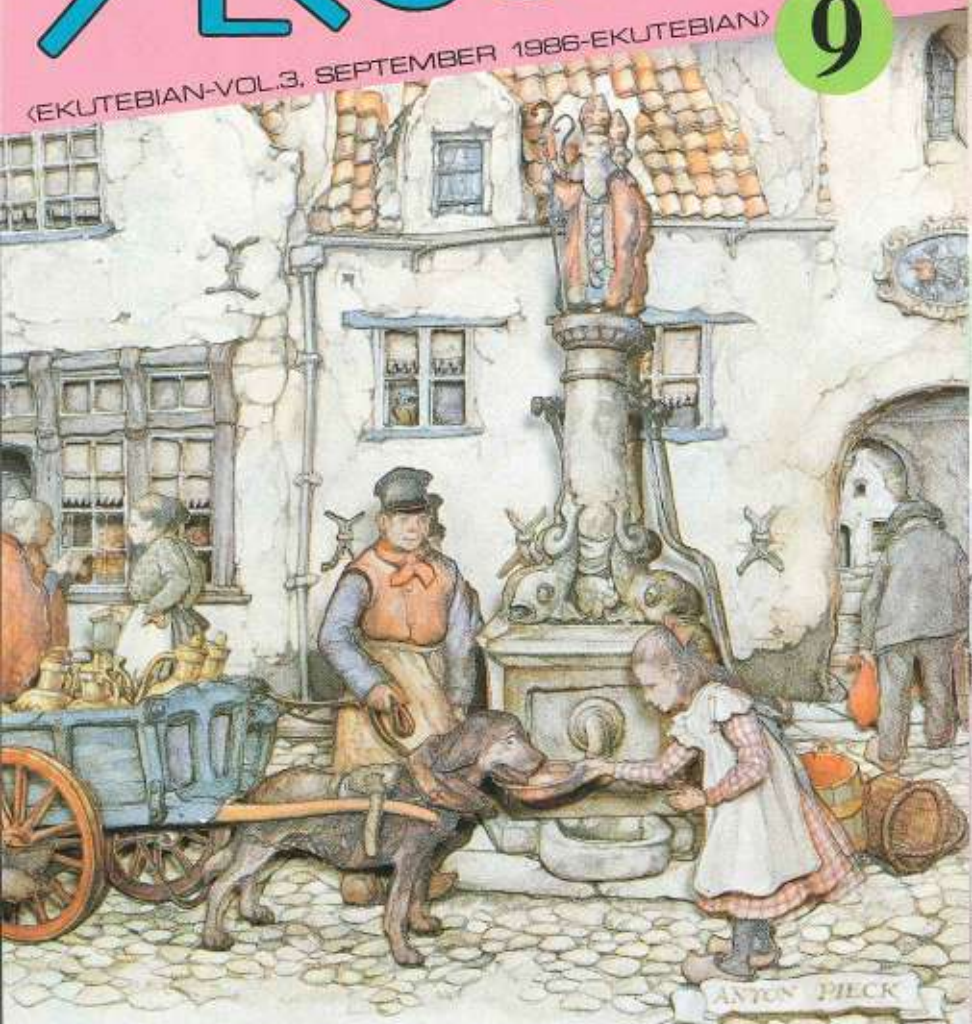
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.3, SEPTEMBER 1986-EKUTEBIAN〉

9



まい あーと・デクパージュ「オランダの街角で」by 原 順子



八木田子さん・幸町二丁目



奥木節子さん・砂川町二丁目



渡川田佳ちゃん・幸町五丁目



シャッポー
CHAPEAUX!

さすがはプロの
モデルさん
(立川・高尾屋
/ファッション
ショーにて)

帽子美人ツ。



中込敦子さん・幸町二丁目



宮澤とも子さん・幸町二丁目



藤谷川さゆりさん・幸町五丁目



高橋田節子さん・幸町六丁目



徳島節子さん・富士塚町二丁目



川口久美子さん・富士塚町六丁目



「わたしの帽子、
どこへいったん
でしょうねえ」

関民さんといえは帽子愛好家で
知らぬ人なし。国立市にアトリエ
を持ち、立川市にもファンが多い。



中込敦子さん・幸町五丁目



武昭江さん・幸町二丁目



山口早苗さん・幸町二丁目



盛田節子さん・幸町二丁目

いま、立川市にはいろいろなたが
飛びかっています。曰く「美人は
帽子をかぶるものだ。曰く「帽子
をかぶるから美人にみえるのだ」。
さらに曰く「いい帽子をかぶると
それにふさわしい美人が誕生する
ものだ」。ま、なにはともあれ、
ここに集うは立川・帽子美人！
初秋の風に、ゆらゆらと。

穫れたあッ!

「育つかなあ」(本誌6月号)と心配された「ふれあい農園」だが、ご覧下さい、このドッサリの収穫! コンピューター時代でも、子供は正直です。陽の光、土の匂い、額の汗、ジャガイモ、トモロコシ、自然の子。



▲たくさんの野菜を手みやげに。今夜のおかずはじゃがいものフルコース。

野菜に名前をつけて今日の収穫を待ち望んでいた子供たち。実際に胸をおどらせた。土の中から手品のようにゴロゴロ、オジャガさまの育ちかたが判った」と子供は歓声をあげた。虫喰いだらけのミスターキャベツがいとおしく、おししのような歯並びのトーチャンコーンが笑う。手にした作物に曇りもふつとびニッカと笑いかける子供。野菜の成長を肌で感じ、一つ一つが新しい体験。照りつける太陽、汗が滝のようだ。どの顔も日焼けに頬を光らせ、お百姓さんありがとうございますの思いでありました。



▲豊かに笑い、心も笑い、なんともスガスガしい一日。



▲オイシーク、とついつい手を伸ばして一足早い食欲の秋。



▲アツアツ、じゃがいもが額を出し、興奮して高高とー。

急募!
『あなたの一旬』
『立川カレンダー』を作りますか?



来年にむけて、全国で、立川にしかないユニークなカレンダーを作りますか。来年の一日一日が立川人からひねり出された一句によって飾られます。

秋の海 見にゆく話し 二われけり
原田南海子さん(羽衣町)

丹精を 込めましたなど 造花ほめ
立ちそばに 著をつければ ベルが鳴り

とびだすな 車がびくりさあたいへん
やってくるかい 一度とまって 右左

☆切/10月10日
☆送り先/えくてびあん編集工房
立川カレンダー製作係
東京都立川市栄町2-4-11
ファイニビルディング 3F



▲ハリキル青年会集会所の皆さん、獲りたての野菜を腕によりをかけて大サービス。

漢字テスト
⑧
空欄に字押入を試みよ。
快 刀 乱 □
齒 亡 □ 存

首都圏に広がる
とみん銀行
暮らしにこそ必要に
お役に立つよう
努力しています。

立川・歴史のひとつ 玉川上水

徳川家康が入城した天正十八年(一五九〇)頃の江戸は、ほんの小さな城下町でした。当時は今の日比谷公園あたりまで海辺で井戸水は塩辛く、江戸城周辺の人々は流れ水とごく少数の井戸を頼って生活していました。幕府開設(一六〇三)とともに急膨張を続ける江戸住民の飲み水の確保は幕府の急務で、まず神田上水(一五九〇)、続いて玉川上水(一六五〇)が開削されていったのです。



玉川上水は、羽村で取り入れた多摩川の水が平坦な武蔵野の台地を通り四谷大木戸に至ります。江戸への給水という目的以外に、この上水は水に乏しい武蔵野の新田開発に多大に貢献し、生活用水のほかに灌漑にも利用されました。砂川の開発もこの上水なしには語れません。

砂川は当初は残堀川に沿って開墾が進められましたが、上水完成わずか四年後には砂川分水が現在の松中橋近くに開かれ、新田開発に拍車がかかりました。さらに一七二〇年には現在の昭島市拜島あたりから殿ヶ谷分水が引かれ、西砂川方面の水田地を潤

していったのです。これらの分水は昭和三十年代までの長きにわたる農家の生活に様々な恩恵を与え続けました。この全長四三キロメートルに及ぶ玉川上水を、一年あまりで完成させた技術は世界の土木工事の歴史に残る優れたものですが、工事を請負った玉川兄弟は土地の測量や土質の調査など苦心を経験しました。その苦心ではこんなエピソードもありました。当時は精密な測量器具などない時代ですから土地の高低差を調べるのに、夜間を利用して近い所は東ねた線香を人夫に持たせ、遠い所は提灯を持たせて歩かせて、その火の光の上下によって土地の高低を測ったというこ

とです。(K・K)

表紙は語る
表紙の作品は、立川駅ビルの朝日カルチャーセンターにあるデクパーシエ教室(野村由紀子先生)の原順子さんの作品だ。



どんなものでも自分で作ってしまおう原さんが辿りついたのがデクパーシエだった。デクパーシエは雑誌やポスターなどの絵を切り抜いて板などに貼り、その上に加工を施してアンチック調に仕上げる手芸だ。同じ材料を使っても簡単に仕上げることも出来るし、手間をかけて凝った仕上げにすることも出来るという。そんなところが自らを不器用な人間と称す原さんが始めやすかった理由と言うが、さすがに凝り性だけあって出来る作品は不器用な人が作る作品には程遠い素晴らしさだ。

立川クイズ
玉川上水は約七キロメートルにわたり立川市内を流れていますが、この間、橋はいくつかかっているでしょうか。
①6 ②11 ③16 ④21 ⑤26
(8月号の答え) 明治22年当時、甲武鉄道は上等、中等、下等と三つのランクに分かれていて下等が22銭でした。中等が44銭、上等は66銭でした。ちなみに22銭は今の金額でいうと、だいたい千八百円くらいだといわれています。今日、立川市新宿間が30円ですから、当時の鉄道は、やはり、高級な乗物だったようです。 答えは②

工房から
●タイアナ妃以来、ご婦人の帽子が再び脚光をあびたと早合点、立川駅前にはひねもす立ち申し上り美人。のご到来をお待ち申し上げたが、いなもんですすなあ、なかなか。たまに巡り巡り。声を掛けるトーンとすまして小走りにつけてゆく。昔から美人薄情としたものです。●ここに登場いただいた美人群こそ、心あたたかき方ばかりでして、ハイ。ウソだと思つたら、写真の上に手をあててご覧なさい、ほら温いでしょう。心あたたかき美人たちをご紹介します。ださつたのは関 民さんと、デザイナートの森淑子さんです。●土をいじればイジメなくなる。記者の実感でした。自然の大きさとぬくもりを子供たちに。●秋めくや素肌のひとえ、えくてびあん。



86立川評話まつり
8月23日 pm6:00~
大鼓流しあかつ
万燈みこし 会
8月24日
宮出し pm2:00~
am11:00~
みこし・山車・大鼓
の文化祭
会場:立川駅前ロータリー

裸婦展
立川ビル画廊開設
20周年記念
61年9月4日(木)~9月9日(日)
61年9月11日(火)~9月16日(日)
立川ビル画廊
アートサロン四季
立川ビル画廊 TEL:0429(22)1111
アートサロン四季 アートスペース88

月刊『えくてびあん』第26号
昭和六十一年九月一日 発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市栄町2-4-11
ファイニビルディング 3F
電話 〇四二五(0)082
編集人 立井啓介
発行人 沖野嘉男
印刷所 株式会社立川印刷所

創る人がいて
味わう人がいる
この華麗なる当り前の世界

—3—

立 川 御馳走館

フランス料理「マル
グリー」開店は去年の
六月と云うから、まだ
一年少々の新進。海の
ものとも山のものとも
つかないと云われなが
ら、海のものも山のも
のも、手際よく料理し
て、少しずつ、マルグ
リー・ファンが増えて
きつつある。シェフ小林
勇夫さんのウデはまだ
まだ。全開とは云えな
い、今年あたりが正念
場か。錦町3・1・22
熊ビル ☎ 24・5114



(左) *Carlotte de Crevette et St-Jacques*

さい巻きエビと帆立貝のシャルロット 2,400円

(中) *Cailles farci au Nid*

うずらのムース詰め(フォアグラ入り)本しめじ添え 2,300円

(右) *Timbale Elysee*

タンバル・エリーゼ 600円

